

週 報

こひつじ

第41巻 18号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

新しい戒めとしての愛

その五 信じる愛

イエスは愛の実践方法についても語られた。

自分は救わず、他人を救われたのである。

「わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ一三の三四)

というのがそれである。

イエスを模倣せよとのことである。

それならイエスはどのように人を愛されたのか。

十字架にかけられたイエスを人びとは、あざわらって言った。

「他人は救ったが、自分は救えない」(マルコ一五の三二)

まさに、ここにイエスの愛の特徴があった。

「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行つて、しばらく休みなさい」(マルコ六の三二)

何とやさしい言葉ではないか。さらに十字架上で、イエスは母マリヤに言われた。

「女の方。そこに、あなたの息子がいます」(ヨハネ一九の二六)

それから弟子のヨハネに、「そこに、あなたの母がいます」(同二七)

と

言つて、母マリヤをヨハネに託されたのである。イエスは最後の瞬間まで母への配慮をお忘れにならなかった。

イエスの愛の多くは、このような細かい心配りとして現われている。

大きな愛の行為をしようとしても、そんな機会はめったにないだろう。むしろ私たちの人生の大半は、多くの小部分から成り立っている。そこでヒルティは言つた。

「人のために大いに役立つ機会はそんなにたくさんあるものではない。しかし、誰かにささやかな喜びをあたえることなら、いつでもできるのだ。たとえそれが親愛の

情をこめて挨拶するといったことにすぎないとしても」

朝、起きたら、ほほえむ。それだけでも、まわりの人を幸せにするのではないか。

アランは言つた。

「幸福であることは、他人に対する義務である」と。

最後に、イエスの愛は、あくまで人を信じる愛だった。

ペテロは自分に危険が迫ると、

「私はそんな人は知らない」

と三度イエスを否んだ。そのときイエスは振り返つてペテロをこ覧になった。するとペテロは激しく泣いたとある。

イエスの眼差しが、非難ではなく愛とゆるしに満ちたものだったからである。

それはイエスの復活をかくに信じようとしなかったトマスに對しても同様だった。やがてトマスの前に現れたイエスは言われた。「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。・・・信じない者にならないで、信じる者になりなさい」(ヨハネ二〇の二七)

トマスはイエスのやさしさに感

激した。

ツルーという宣教師も愛の人だった。

ツルーは矢嶋楯子の能力を信じて、彼女を自分の学校の校長にした。ところが楯子は喫煙家だった。

若い教師たちはそのことでツルーに訴えたが、ツルーは「神様が必ず彼女に語ってくださいます」と答えるだけだった。

楯子は若い教師たちの批判を知りながらも、たばこをやめようとしなかった。が、ある日、彼女のたばこの不始末で火事を起こしてしま

う。あわや大惨事になるところだった。

楯子は悔いる。

しかしツルーは、楯子を責めるどころか、自分の指導が足りなかったからだとやってゆるしを乞うる。

楯子は驚いた。そして思った。

なぜ叱らぬのか。なぜ怒らぬのか。なぜ咎めぬのか。もともとミセス・ツルーは、人を咎めることを知らぬ人格の持ち主なのであるうかと。

楯子は、ツルーが、あくまで自分を信じてくれていることに感動

はないのである。(終)

し、回心する。

その後、楯子は、ツルーが自分を信じてくれたように、生徒たちを信じようと思い、すべての校則を取り払うのである。

イエスもまた、弟子たちを信じ「イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、・・・彼らを最後まで愛し通された」(ヨハネ一三の一―口語訳)

と聖書にあると通りだ。

私がクリスチャンになって六〇年が過ぎた。振り返ると、悲しいけれど、失敗だらけの人生だった。

にもかかわらず、イエスは私を見捨てられなかった。私をあきらめず、今も信じ続けてくださっている。

それがイエスの愛なのだと思う。その愛は、私の家族にも働いている。妻も子どもたちも私の日々の生活を見ながら、落胆せず、私をゆるし、なお信じ続けてくれているのだから。

私は彼らの愛に感謝するほか

今日の礼拝

した。健やかな成長を祈りました。

先週の礼拝参加者
